

一般社団法人 日本応用地質学会
令和4年度・2022 年度
第4回国際委員会・IAEG JAPAN 運営委員会 議事録(案)

日 時 : 2022 年 10 月 27 日(木) 15:00~17:30

場 所 : 日本応用地質学会 事務局、Zoom を用いた Web 会議(併用)

出席者 : 長谷川委員長、加地委員、水野委員、百嶋委員、安田委員、山下委員、山田幹事

委任状提出: 菊地副委員長、越谷委員、昆委員、徳楠委員、百瀬委員

陪席: 茶石顧問

議事:

1. 前回議事録(案)の確認

- ・前回(2022 年 8 月)に開催した委員会の議事録(案)を了承した。

2. 理事会報告

- ・令和4年度第 6 回、第 7 回理事会の内容について報告がなされた。

3. IAEG JAPAN 運営委員会活動について

(1) IAEG 事務連絡

1) IAEG Council Meeting 2022 関連

- ・9/14 に開催された内容について説明がなされた。
- ・15th ARC(2025 年)に、バングラデシュが立候補した。正式には次回総会(2023 年、中国・成都)で承認されることになるが、ほぼ確定と思われる。
- ・総会の参加報告は、IAEG 事務局の議事録を待たずに、簡単な開催概要だけでも良いので作成する。学会誌 12 月号掲載を目標に準備し、学会誌より先行して国際会員へメール配信を行う。

2) IAEG Newsletter 関連(2022 No.2)

- ・2022 No.2 の内容について説明がなされた。
- ・上記 1)の Newsletter 報告の中で、過去 4 年間で話題提供が特に活発な National Group が 4 か国紹介されており、JapanNG は中国に次いで 2 番目に多いとの報告だった。(中国 12、日本 11、バングラデシュ& ナイジェリア 8)
- ・2022 No.3 の投稿へ向けて、引き続き素材の収集準備を進める。(10 月の研究発表会(特別セッション)など)

3) 査読依頼関連(①Editorial Board、②IGGCAS(中国科学院))

- ・①:Louis Wong 氏への確認結果について説明がなされた。次のステップとして、琉球大の関係者に状況を確認してみる。
- ・②:査読依頼への回答について説明がなされた。(今回は推薦無しとしてメール回答済み)

4) IAEG 役員改選(2026 年アジア地区副会長への立候補)について

- ・会長からの連絡(11 月にご回答頂ける予定)を受けて、具体的に立候補者の絞り込みを進める。
- ・その他関係者からの打診については、次期国際委員長のポストも視野に入れつつ継続審議とする。

5) 他 National Group との交流について

<韓国>

・JSEG 研究発表会 特別セッションの成功を受けて、引き続き交流を継続するための企画を検討する必要がある。より魅力的な企画(英語セッションの実施など)を通して、国際会員の増加にもつなげていきたい。

※以下、各委員からの意見:

・韓国では産学界の交流が盛んである。応用地質分野における日韓での取り組み方の違いや、日韓共同プロジェクト(産学官連携)を紹介する企画を通して、相互交流の発展につながることを期待できる。

・KSEG の研究発表会(年2回:春秋)では、英語枠のセッションを設けてもらった上で、今後も日本の先生方に発表して頂く機会を継続できるとよい。

・お互いの国内向けHPに、相手先HPへのリンク先を掲示することで、会員レベルでのつながりを作っていくこともできるはず。あとは前例のような Webinar での交流も有効。

<CHINESE TAIPEI>

・CHINESE TAIPEI Regional Group の代表から回答があり、YEGsのメンバー2名を窓口として交流を進めたいとのこと。まずはメール等で情報交換を行う。

・JSEG 側の YEGs対応メンバーの増員候補についても検討する。

<その他>

・今後、各国との交流を活発化していくことを想定した場合、事前に講演協力して頂ける候補者や災害地質研究部会(60周年特集記事など)の協力を得た上で、発表用素材(英語版PPT)を常備しておくのが望ましい。

6) IAEG アジア地域会議(アジアシンポジウム_ARC)について

・これまでの開催経緯と今後の展開案について説明がなされた。

・第14回ARC(マレーシア)は開催時期を2024年秋に延期したとのこと。翌2025年はバングラデシュが開催国に立候補しており、中長期的な開催予定の見通しを立てておくことが望ましい。

・単に2027年のARCの日本招致を目指すのではなく、ARC開始時の提唱国であり、かつARCの節目でこれまで日本が果たしてきた役割を鑑み、ARCの今後の展開を日本が主導的に果たすことを視野に入れて、2023年~2026年の4年間の任期でIAEGアジア地区副会長に就任予定のRanjan氏とSeo教授、二人の国内在籍時の大学関係者(名古屋大、香川大など)にも関わってもらいつつ協議を進めて行くべきである。例えば、JSEGシンポジウム(6月)やIAEGコンGRESS(9月)の開催時に集まり、対面で意見交換を行う場をJSEGでセッティングするなど。

(2) その他

1) 学会誌 Bulletin 紹介

・編集委員会からの指摘事項(取り急ぎ過去3回分程度)について、委員会内で共有を図る。

・半年に1回程度を目標に、投稿論文の分野別傾向を分析する。

・新スタイルでは翻訳時の担当者の負担軽減のため、原稿は最大2ページ程度とする。内容の一例として、各担当が自身の得意とする業務分野に着目し、同分野でのBulletin掲載論文の紹介を絡めて、最近の国内動向との比較を行う、など。

2) ダイバーシティ推進特別委員会

・令和4年度第5回委員会の議事録について説明がなされた。11月には若手座談会の開催を予定しているとのこと。

3) 若手技術者を対象とした海外技術関連情報・知見の発信について(研究発表会_特別セッション開催)

・当日の総括について説明がなされた。当日の宿題として、会長質問の文章化などの対応が残っている。

- ・来年以降においても、より魅力的な企画(英語セッションの実施など)を通して、海外 NG との交流を継続しつつ、国際会員の増加にもつなげていく必要がある。
- ・特別セッションの参加者からアンケートを取れば、次回以降のテーマ選定がしやすくなるはず。

4) 大学機関等からの国際委員会への参加について

- ・若手の大学関係者 ⇒国際委員会、YEG にも加わってもらう方向で要請する。

5) 海外シンポジウム

- ・現在、学会 HP に掲載中の情報について説明がなされた。適宜内容を最新情報に更新した上で、JSEG_HP のトップページ及び学会 NL での周知を手配する。
- ・2024 年の IAEG 総会は、37th IGC (2024 年 8 月、韓国・釜山)または 14th ARC (2024 年秋、マレーシア)で開催されるはずなので、引き続き情報収集を進める。

4. ホームページ関係

(1) JSEG 英語版 HP

- ・直近での新たな試みとして、国内災害情報の速報的な情報提供(SNS)や写真集コーナー新設(HP)(災害調査団&海外調査団(ネパールと韓国はある?))などの対応準備を進める。
- ・災害地質研究部会の部会長に対して、災害調査団報告の英語版ひな型(写真+コメント)を送付し、今後の掲載に向けてご協力頂けるとの回答をもらった。
- ・国際委員会としての学会 Facebook の活用方法については、引き続き検討する。

(2) JSEG 日本語版 HP

- ・国際委員会としての学会 Facebook の活用方法については、引き続き検討する。

5. 海外情報の共有

- ・「海外アラカルト」講演について今後も継続するため、まずは各委員から候補者を選定する。

6. 重要案件の対応

(1) 韓国・CHINESE TAIPEI Regional Group との交流推進

- ・本活動は、下記(2)とのセット対応も含めて検討する。
- ・CHINESE TAIPEI Regional Group の連絡窓口は、以下の通り。
Dr. Ya-Chu Chiu. (Female) Assistant professor, National Chung Hsing University. clarice.chiou@gmail.com
Dr. Che-Ming Yang. (Male) Assistant professor, National United University. stanleyyangcm@gmail.com
Li-Yuan Fei, the representative of IAEG Chinese Taipei National Group

(2) 若手技術者向けの海外技術関連情報の発信

- ・秋の研究発表会での特別セッション継続へ向けて、JSEG 講演者と海外招待者の調整を進める。

(3) HP等での海外発信用コンテンツの作成

- ・学会 Facebook の利活用方法など。
- ※災害調査団速報も含むため、災害地質研究部会への英訳作成協力を要請する。

7. その他

- ・次回委員会(令和 4 年度_第 5 回)は、令和 5 年 1 月中に開催する方向で調整する。